

2026

宮崎大学学生生活

Student Life at University of Miyazaki

2025 年度「学習カルテ：アンケート」のまとめ



宮崎大学
University of Miyazaki

はじめに

ここに 2025（令和 7）年度に実施しました「宮崎大学 学習カルテ：アンケート」のまとめである「宮崎大学 学生の生活」をお届けします。

宮崎大学では、2006（平成 18）年から、学生の学習状況や生活の実態を把握することを目的として、毎年学生調査を実施しております。今回の調査では、3,413 名に調査への回答を依頼し、昨年度よりも約 7% 高い 82.6% という割合で回収することができました。質問項目は、毎年少しずつ見直ししながら、少しでも学生の実態に迫れるような工夫を行っております。

今回の調査結果を見ますと、大学での学びにおいて、「理解しやすいように教え方が工夫されている」や「授業時間外に行うべき学習が指示されている」などの質問に対して、「よくあった」と回答した割合が、どの調査においても 10% 以上増えており、教員の授業における工夫を肯定的にとらえている学生が大幅に増えています。以前から力を入れているシラバスを中心とした教育改革の成果が少し表れてきているようです。これらは、学生が身に付けた知識・能力の自己評価にも表れています。たとえば、「専門知識分野に関する知識・理解」や文献・資料を収集・分析する力」などにおいて、「身に付いた」と感じている学生の割合が 10% 以上増えています。

一方、読書週間については、2 年次の調査だけでなく、最終年次の調査でも半数以上が「ほとんど読まない」と回答しており、学生の読書離れが進んでいます。ただし、「1 カ月に 3 冊以上」や「1 カ月に 1～2 冊程度」と回答している学生の割合は、どの学年でも少し増えているという実態もあります。

今後もさまざまな視点から分析を進めるとともに、調査の結果を学内で共有し、学生生活支援や、カリキュラムの改善、学習環境の整備等に役立てていきます。もし、お気づきの点や今後の取り組みへのご提案等がありましたら、ぜひお寄せください。

2026 年 9 月

宮崎大学 理事（教育・学生担当）
学び・学生支援機構長

藤井 良宜

一 目 次

1	アンケートの概要	1
2	宮大生の学び	3
3	在学中の経験	5
4	成長の実感	6
5	宮崎大学の学習環境	8
6	生活の実態	10
7	入学時の意欲	12
8	大学院生の生活	13

協力してくれた学生の皆さん

初年次アンケート2025/4/3～2025/5/31

学部	学科	専攻・コース	回答数	回答率
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース	114	99.1
		教職実践基礎コース	15	100.0
		発達支援教育コース	20	95.2
医学部	医学科		99	99.0
	看護学科		61	98.4
工学部	工学科	化学生命系	63	100.0
		土木環境系	56	98.2
		半導体サイエンス系	46	97.9
		電気電子システム系	60	100.0
		機械知能系	67	100.0
		情報通信系	78	100.0
農学部	動植物資源生命科学コース		92	90.2
	森林環境持続性科学コース		50	94.3
	応用生命化学コース		45	95.7
	海洋生命科学コース		41	97.6
	獣医学科		34	93.8
地域資源創成学部	地域資源創成学科		90	98.9
合計		(在籍数：1,059)	1031	97.4

最終年次アンケート（学士）2025/12/1～2026/3/23

学部	学科	専攻・コース	回答数	回答率
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース	91	95.8
		教職実践基礎コース	11	100.0
		発達支援教育コース	20	95.2
医学部	医学科		90	87.4
	看護学科		27	43.5
工学部	旧学科		11	73.3
	工学科	応用物質化学プログラム	65	98.5
		土木環境工学プログラム	43	72.9
		応用物理学プログラム	50	89.3
		電気電子工学プログラム	57	95.0
		機械知能工学プログラム	53	91.4
		情報通信工学プログラム	61	100.0
農学部	植物生産環境科学科	22	41.5	
	森林緑地環境科学科	48	81.4	
	応用生物科学科	46	85.2	
	海洋生物環境学科	8	22.2	
	畜産草地科学科	31	53.4	
	獣医学科	8	27.6	
地域資源創成学部	地域資源創成学科		94	95.9
合計	(在籍数：1,054)		836	79.3

2年次アンケート2025/12/1～2026/3/23

学部	学科	専攻・コース	回答数	回答率
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース	103	92.0
		教職実践基礎コース	15	100.0
		発達支援教育コース	20	90.9
医学部	医学科		93	98.9
	看護学科		36	60.0
工学部	工学科	応用物質化学プログラム	55	87.3
		土木環境工学プログラム	23	41.8
		応用物理学プログラム	42	79.2
		電気電子工学プログラム	57	93.4
		機械知能工学プログラム	16	25.4
		情報通信工学プログラム	67	95.7
農学部	植物生産環境科学科		48	98.0
	森林緑地環境科学科		35	68.6
	応用生物科学科		3	5.6
	海洋生物環境学科		2	6.5
	畜産草地科学科		30	93.8
	獣医学科		17	34.7
地域資源創成学部	地域資源創成学科		50	58.1
合計	(在籍数：1,020)		712	69.8

最終年次アンケート（修士）2025/12/1～2026/3/23

学部	学科	専攻・コース	回答数	回答率
教育学研究科	教職大学院	教職実践開発専攻	16	100.0
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	3	42.9
工学研究科	修士課程	機械・情報系コース	1	100.0
		先端情報コース	60	96.8
		環境コース	43	95.6
		電気・半導体コース	33	94.3
		機械コース	29	93.5
農学研究科	修士課程	植物生産環境科学コース	6	37.5
		森林緑地環境科学コース	7	100.0
		応用生物科学コース	21	100.0
		海洋生物環境科学コース	5	38.5
		畜産草地科学コース	5	50.0
		農学国際コース	1	50.0
医学獣医学総合研究科	修士課程	医科学獣医学専攻	6	54.5
地域資源創成学研究科	修士課程	地域資源創成学専攻	3	100.0
合計	(在籍数：280)		239	85.4

対象者数：3,413名

回答者数：2,818名

回答率：82.6%

調査に参加された学生の皆様

調査実施に尽力いただいた皆様

深く感謝申し上げます。

学生の学習状況及び学習ニーズを正確に把握し、学習支援の充実や教育改善に活用することを目的として、初年次、2年次、最終年次と在学期間中に3度の学習調査を実施しています。また、質問項目の一部は全国学生調査の項目となっており、国によって今後の政策立案に際しての基礎資料として活用されます。（全国学生調査の項目には、質問文の末尾に*印を付しています。）

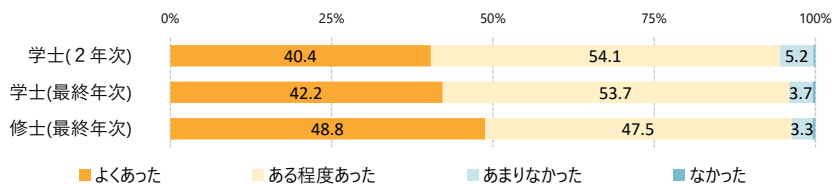
実施方法：ウェブによるアンケート

質問項目：

初年次（4月）	2年次（12月）	最終年次（12月）
入学時 ・高校時代の学習 ・進路選択時の情報活用 ・志望理由 ・入学時の意欲 ・オープンキャンパス 教育目標 ・教育目標の理解 ・アドミッションポリシーの理解 ・ディプロマポリシーの理解 ・カリキュラムポリシーの理解 SPARC ・SPARC事業の認知 留学 ・入学前の留学、渡航経験 ・在学中の留学の意識 生活 ・住居形態 ・読書 ・朝食 ・ボランティア 進路・就職 ・準備・活動の開始時期 ・進路・就職の希望先 ・進路・就職の所在地 ・就職希望先の条件	大学の授業 ・授業が重視する項目 ・授業の工夫 ・学習の機会 経験の有用性 ・英語で行われる授業 ・海外留学・海外研修 ・インターンシップ ・課外活動 成長の実感 ・成長の実感 ・身に付いた能力 学びのふり返り ・学びの環境 ・大学の運営 ・他者への推奨 ・シラバス活用 生活時間 ・授業 ・事前・事後の学習 ・サークル活動 ・アルバイト 生活 ・朝食 ・読書 ・友人 ・サークル ・ボランティア 地域への関心	大学の授業 ・授業が重視する項目 ・授業の工夫 ・学習の機会 経験の有用性 ・英語で行われる授業 ・海外留学・海外研修 ・インターンシップ ・課外活動 成長の実感 ・成長の実感 ・身に付いた能力 学びのふり返り ・学びの環境 ・大学の運営 ・他者への推奨 ・シラバス活用 生活時間 ・授業 ・卒業論文・卒業研究 ・事前・事後の学習 ・サークル活動 ・アルバイト 生活 ・朝食 ・読書 ・友人 ・サークル ・ボランティア 地域への関心
	進路・就職 ・進路・就職の希望先 ・進路・就職の所在地 学習環境への満足度	進路・就職 ・進路・就職の希望先 ・進路・就職の所在地 学習環境への満足度

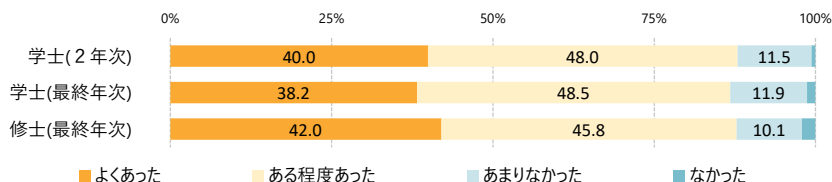
学習の機会

● 理解がしやすいように教え方が工夫されている*



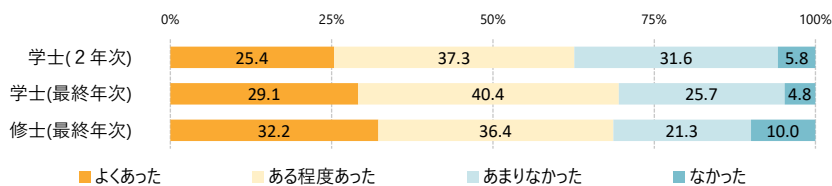
● 学生の理解度に応じたわかりやすい授業がおこなわれていると認められる。

● 授業時間外に行うべき学習が指示される*



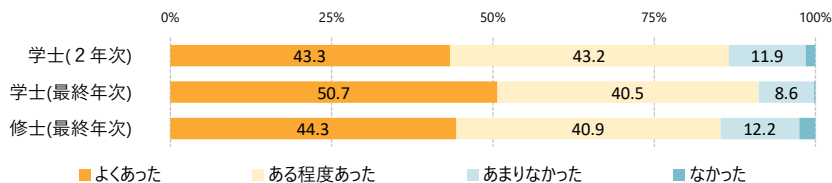
● 授業時間外に学習するよう教員から指示される実態がうかがわれる。単位の実質化という点でこの活動は重要である。

● 課題などの提出物にコメントが付されて返却される*

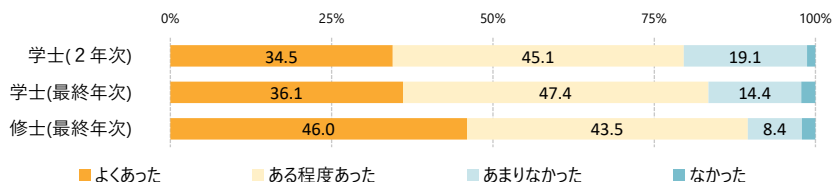


● 教員からのフィードバックは学習動機を高めると考えられており、指導上の工夫としてとくに重要である。

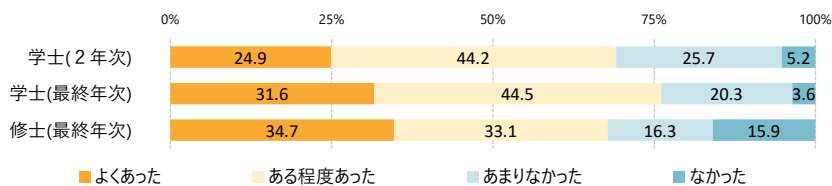
● グループワークやディスカッションの機会がある*



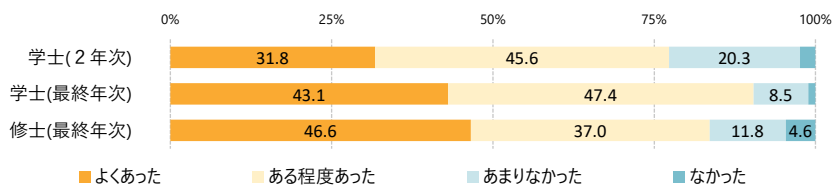
● 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある*



● ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある*

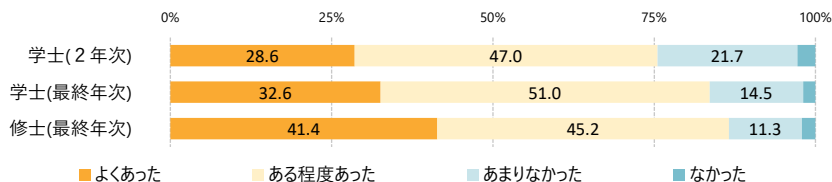


● プロジェクト学習等学生間で協力して調査や発表する機会がある



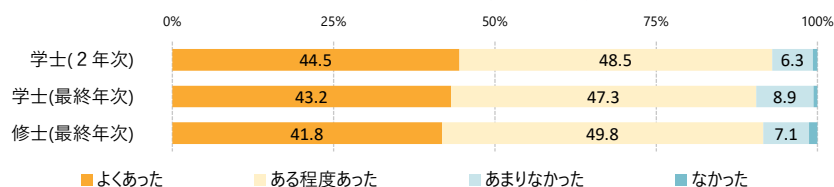
● 教員によって様々な指導方法が工夫され、学年の進行とともにより積極的にアクティブラーニングが採用されていることがうかがわれる。

● クリティカルシンキング(※)を鍛える機会がある

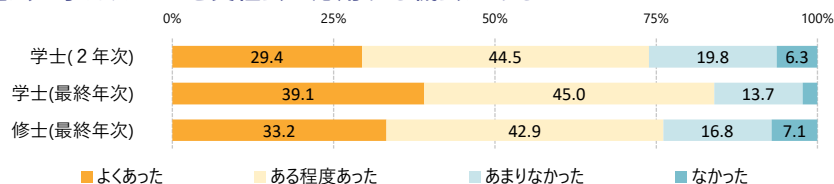


※ある問題を多角的に分析し、その問題に関する既存の意見や主流となる考え方の客観性や妥当性を検証することなどを指す。

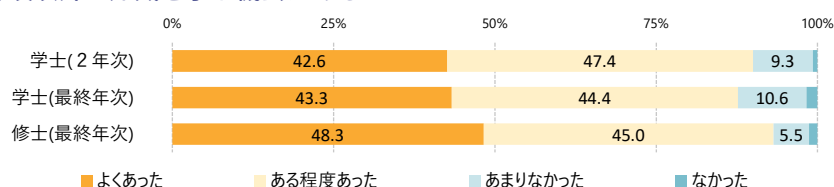
● ある科目で学んだことを他の科目において応用する機会がある



● 過去に学んだことを実社会に応用する機会がある

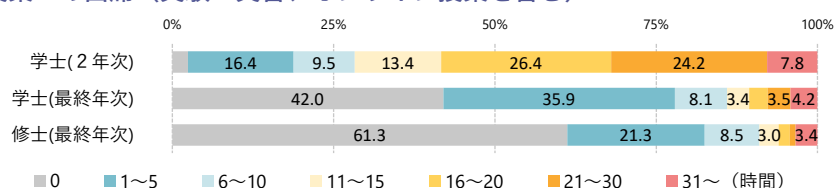


● 専攻以外の知識を学ぶ機会がある



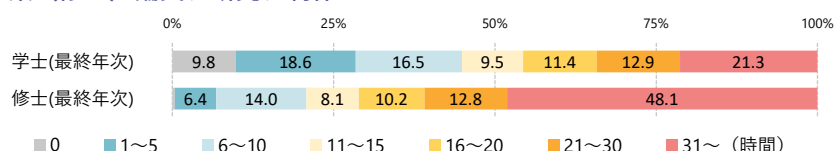
学生の学習時間（1週間平均）

● 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）*



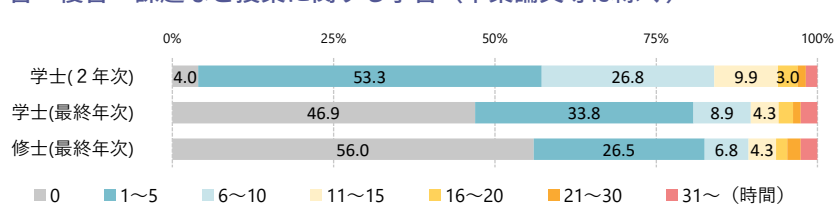
● 授業への集中力を維持し、教育効果を高めるという観点からは、1週間あたりの授業への出席の時間数は6時間以上20時間以下が望ましい。

● 卒業（修士）論文、研究、制作*

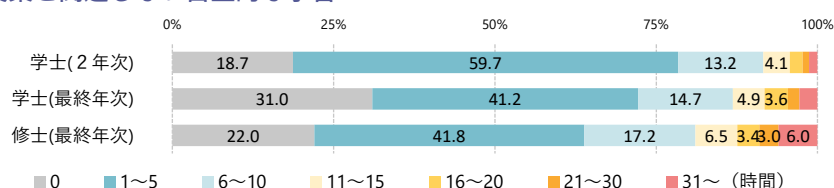


● 最終年次は、卒業研究中心の生活にシフトしている。修士課程でその傾向は強まり、半数近くが週31時間以上論文執筆に費やしている。

● 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）*



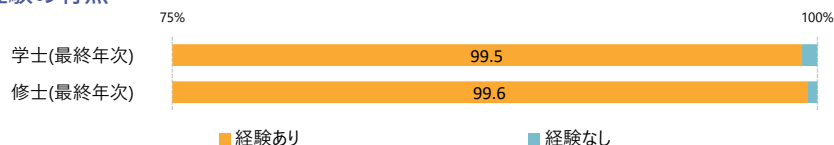
● 授業と関連しない自主的な学習*



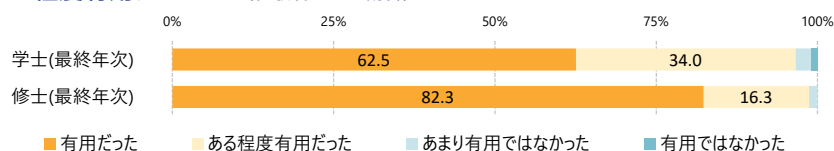
卒業(修士)論文・卒業(修士)研究

※医学部を除く

● 経験の有無



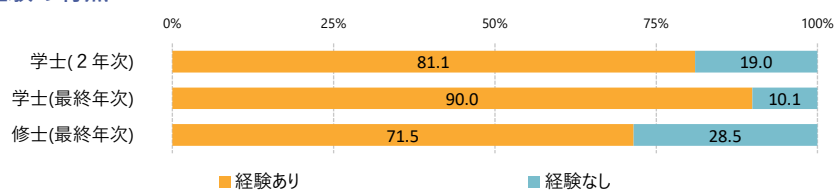
● どの程度有用だったか (経験者のみの割合)



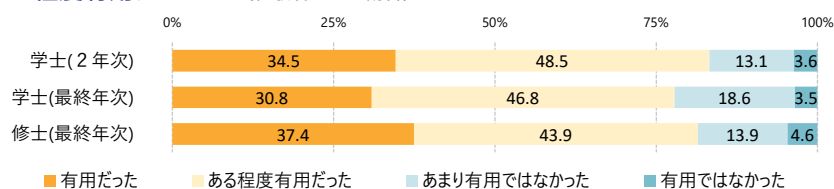
● 卒業(修士)論文、卒業(修士)研究、への取り組みは、これまでの学びの集大成である。自ら問いを立て、調べ、考え、根拠をもって結論を出す一連のプロセスを経験し、ほとんどの学生が、有用な経験だったと回答している。

主に英語で行われる授業（語学科目除く）の履修*

● 経験の有無

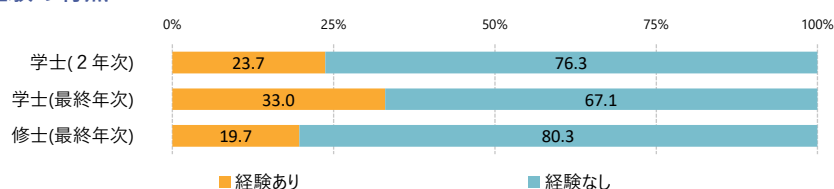


● どの程度有用だったか (経験者のみの割合)

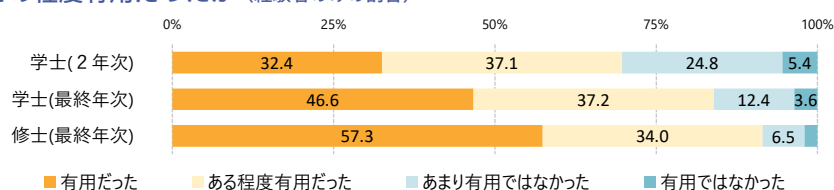


海外留学・海外研修（短期も含む）*

● 経験の有無

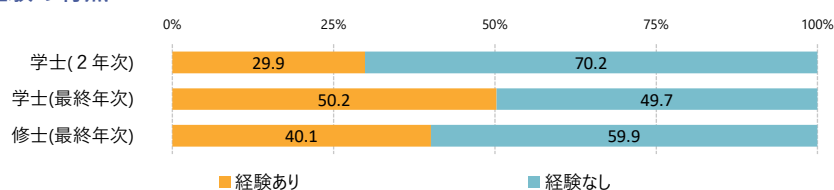


● どの程度有用だったか (経験者のみの割合)

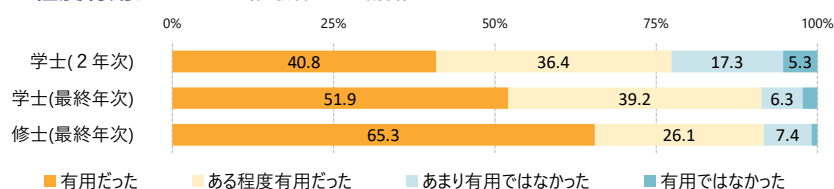


インターンシップ（5日間以上）*

● 経験の有無



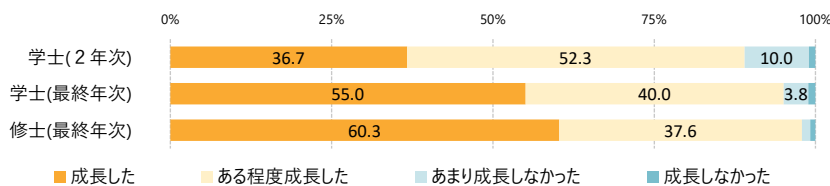
● どの程度有用だったか (経験者のみの割合)



● 5日間以上のインターンシップは、2年次で約30%、最終年次で50%が経験しており、経験者の多くが有用な経験だったと評価している。地域資源創成学においては、全国学生調査_第4回試行で、ポジティブリスト（その他部門1位）に掲載されている。

成長の実感

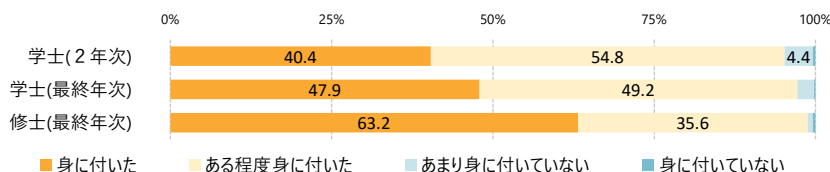
● 在学期間中の成長実感



● 学年が進行するにつれ、成長の実感が高まっている。

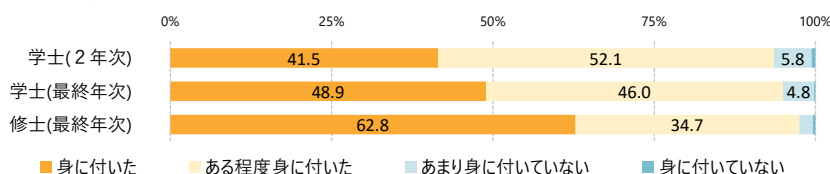
身に付いた知識・能力

● 専門分野に関する知識・理解*

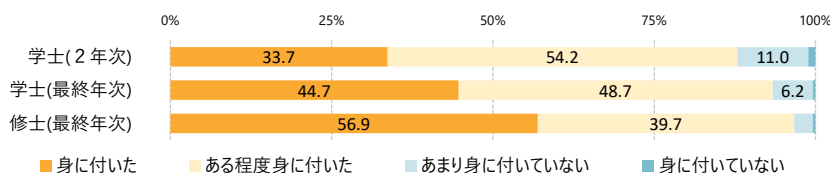


● 教養的知識に比べ、専門分野ではより顕著に知識が豊富になっている。

● 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観*

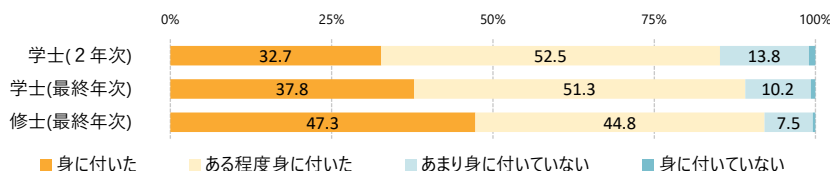


● 文献・資料を収集・分析する力*

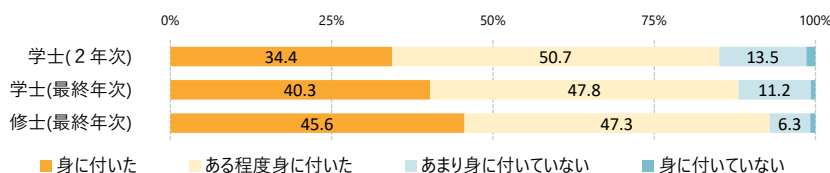


● 授業を通して様々な能力が身についたことがわかる。多くの項目で80%を超える学生が「身に付いた」「ある程度身に付いた」と答え、学年の進行にともない肯定回答が顕著に増加している。

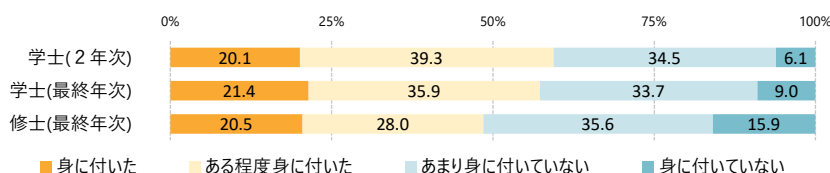
● 論理的に文章を書く力*



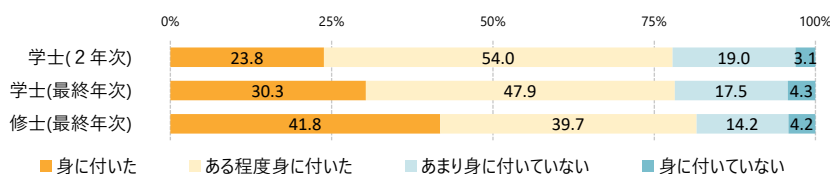
● 人に分かりやすく話す力*



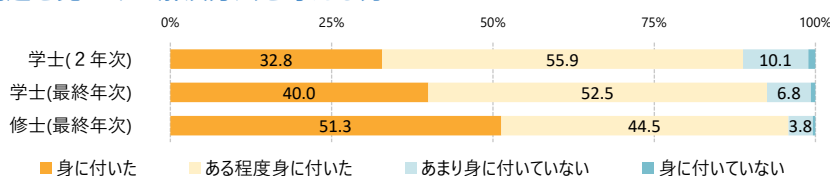
● 外国語を話す力*



● 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能*

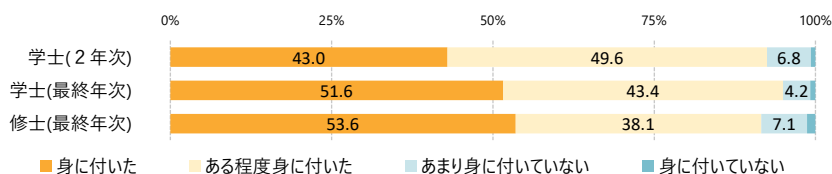


● 問題を見つけて解決方法を考える力*

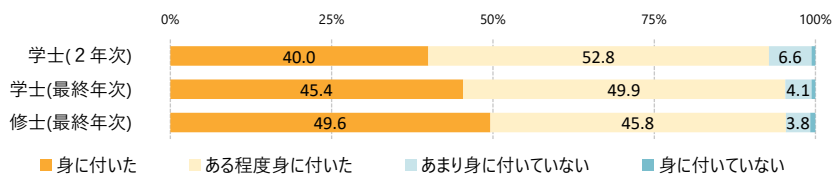


ここで取り上げるジェネリックスキルは、試験による測定が困難なものが含まれる。そのため、本調査によって学生の成長過程を把握することには大きな意味がある。とくに聞く、書く、話すに関するコミュニケーション能力は、他の資質・能力の基盤として重要である。科目間の効果的な連携によって、こうした基礎的能力が学年とともに向上していることがうかがわれる。

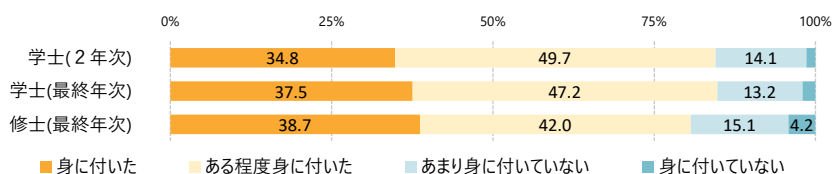
● 他者と協働する力*



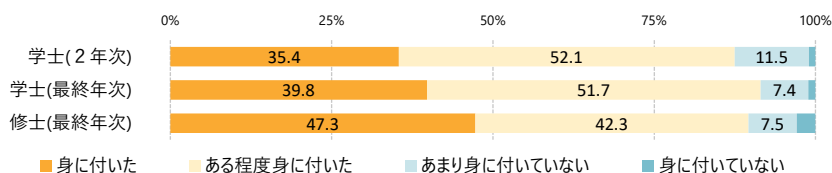
● 幅広い知識、ものの見方*



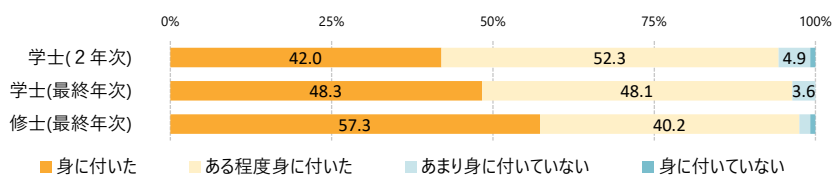
● 異なる文化に関する知識・理解*



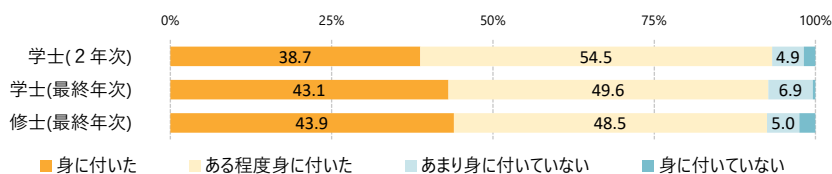
● 人間性・社会性・国際性（社会に貢献できる力）



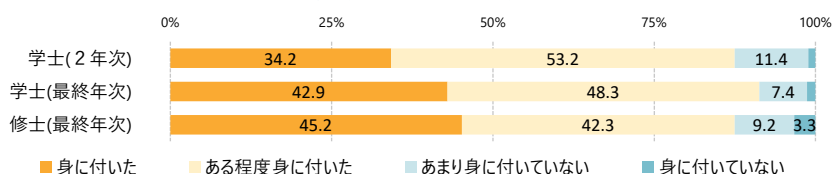
● 聞く力や相手の考えを理解する力



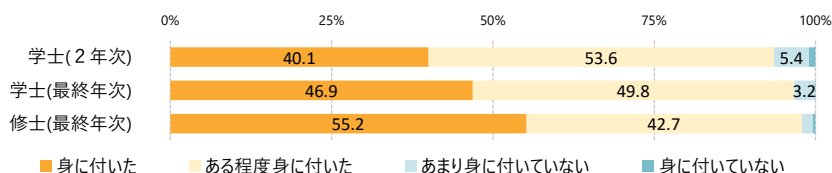
● 一般教養



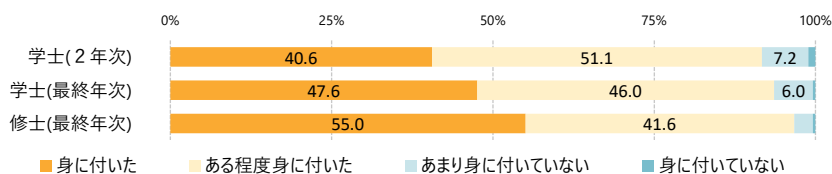
● 自然や社会とかかわりながら現場から学ぶ態度



● 思考力・判断力



● 主体的に学ぶ力



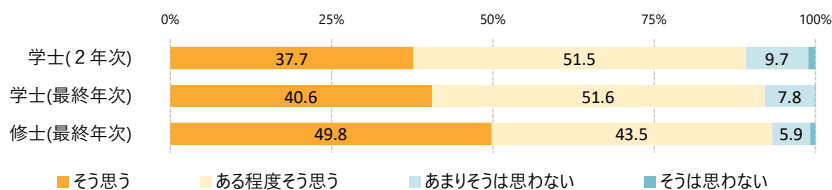
● 90%を超える学生が他者と協働する力が身に付いたと回答しており、グループワークやプロジェクト学習などを通して、他者と意見を交わしながら協力して課題に取り組む力が着実に育まれていることがうかがわれる。

● 現場から学ぶ態度について、多くの学生が「身に付いた」と回答しており、学修者本位の教育がおこなわれていることをうかがうことができる。

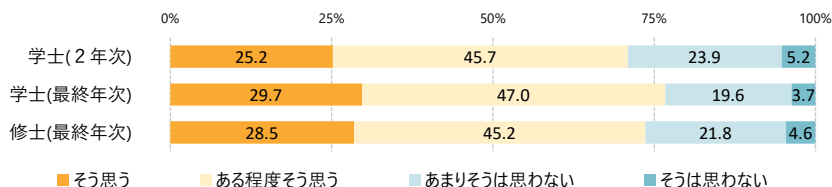
● 判断力や主体的に学力の習得は学年の進行にしたがって向上が認められる。これはアクティブラーニング採用の頻度に応じて自分自身で考える姿勢が身に付いていることを示唆する。

学習環境に関する学生の評価

● 卒業時まで学生が身に付けるべき知識や能力を意識して学修している*

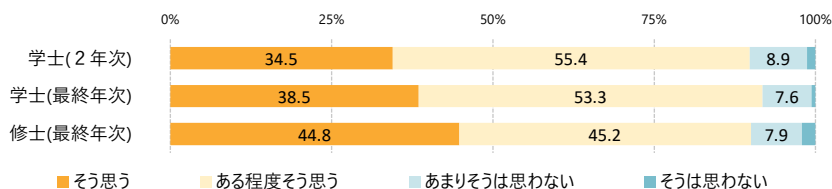


● 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている*

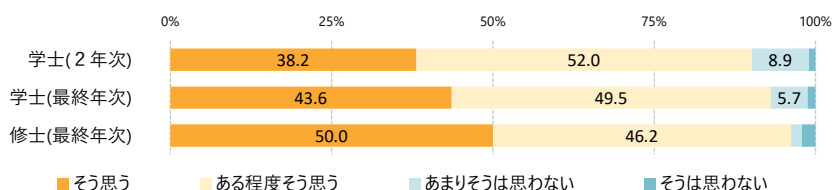


● 本学では、在学生対象の学生調査「学習カルテ：アンケート」をはじめ、各授業の学びを振り返る「授業ポートフォリオ」、卒業生対象の「卒業生アンケート」等を教育の改善に活用している。

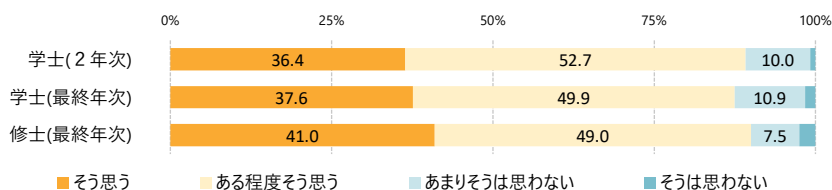
● 教職員が熱心に教育に取り組んでいる*



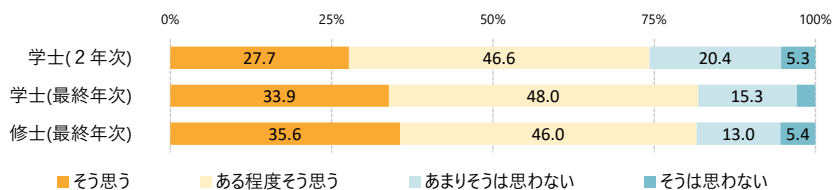
● 大学の学びによって成長を実感している*



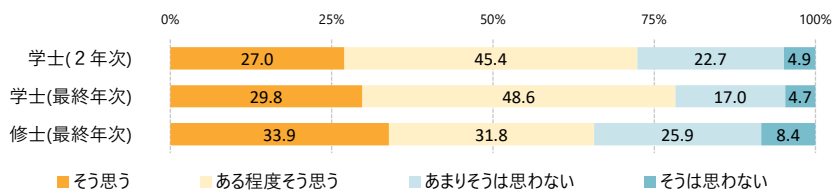
● 授業はやりがいや挑戦しがいのある内容である



● 大学進学を検討している知人や親戚がいたら宮崎大学を勧める

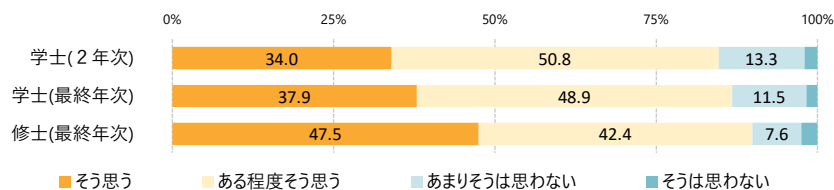


● 大学の運営に対して提案する機会が学生に与えられている

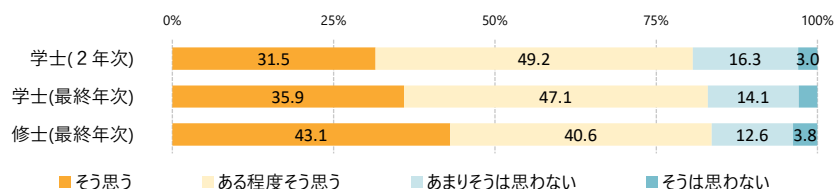


● 本学では、「学生参加のFD研修会」や「学生連絡協議会」などを通して、学生と教員の意見交換会を実施し、教育環境の改善に役立てている。

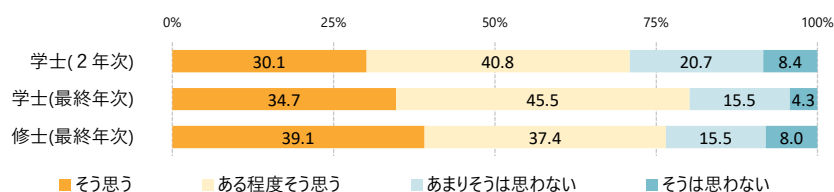
● 大学で学ぶことが自分の自信につながっている



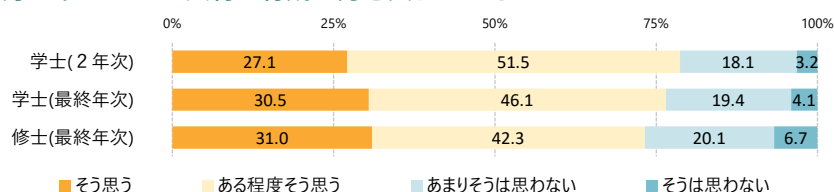
● 教員、事務職員、学生を含む大学のコミュニティの一部だという実感がある



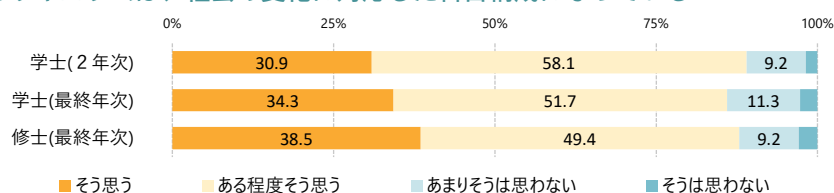
● もし過去に戻って大学を選び直せるとしたら宮崎大学を選ぶ



● 大学はグローバル人材の育成に力を入れている

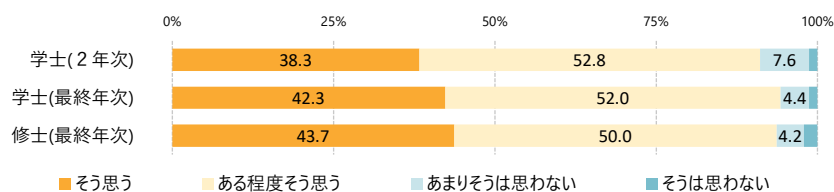


● カリキュラムは、社会の変化に対応した科目構成になっている



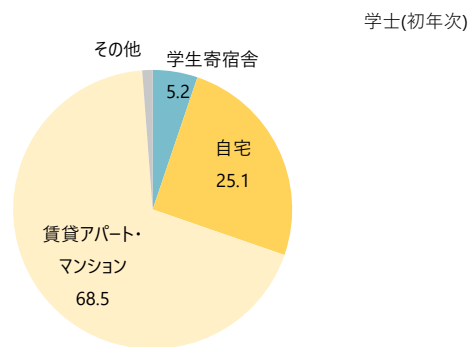
● 目まぐるしく変化する社会に対応するために、新規科目の追加、実務家教員、外部講師による科目の導入などにより、社会のニーズをカリキュラムに反映している。

● シラバスは充実している



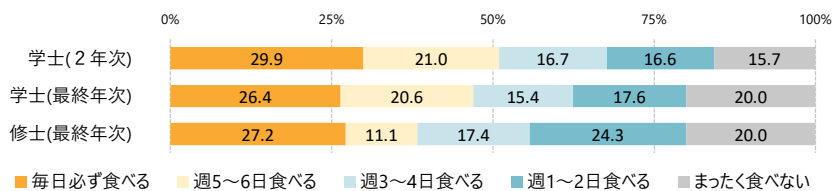
生活の実態

● 住居形態を教えてください



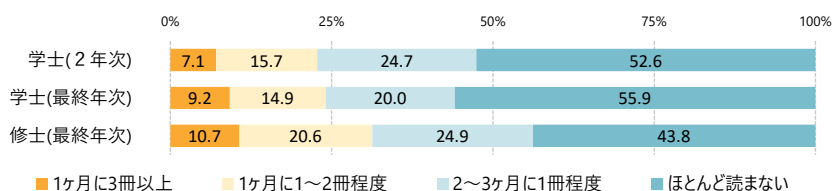
- 70%以上の学生が「賃貸アパート・マンション」「学生寄宿舍」に暮らし、親元を離れて一人暮らしを経験していることがうかがわれる。

● 朝食の習慣を教えてください



- 「毎日必ず食べる」と答える学生は、どの学年においても30%に満たない。

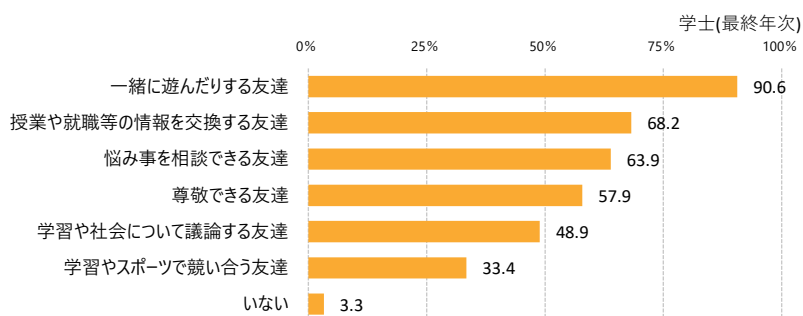
● 読書習慣を教えてください



- 読書は大学教育に基礎を与える重要な習慣だと考えられるが、どの学年でも半数程度の学生が「ほとんど読まない」と回答するなど、その実態は危機的状況にある。

交友関係

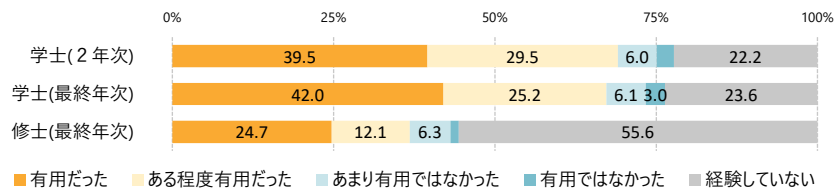
● 大学内にどのような友人がいますか(複数回答)



- 交友関係の広がりには認められるものの「悩み事を相談できる友達」「尊敬できる友達」「学習や社会について議論する友達」を持つ学生は多いとは言えない。

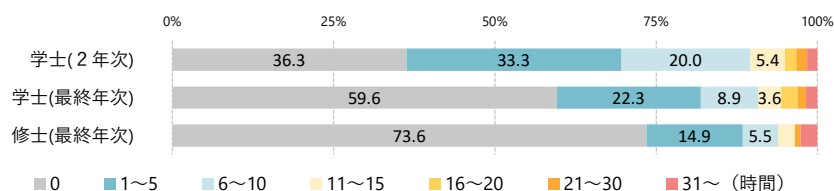
部活動／サークル

● 部活動／サークル活動の有用性



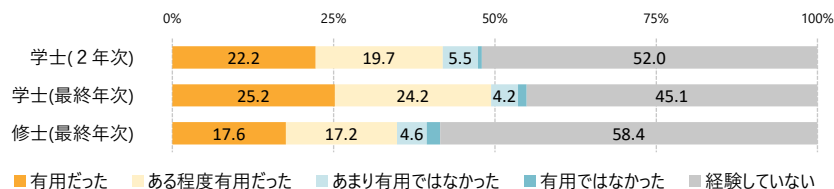
● 学士は75%程度、修士は45%程度の学生が部活動やサークル活動を経験しており、経験者の多くが「有用だった」「ある程度有用だった」と回答している。

● 部活動／サークル活動の時間（1週間平均）＊



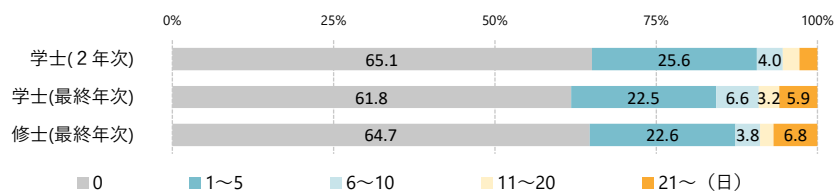
ボランティア活動

● ボランティア活動の有用性



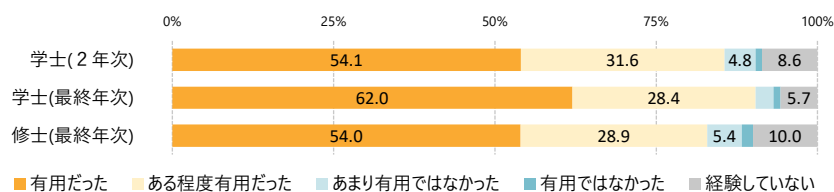
● ボランティア活動の経験者は半数程度と少ないが、経験者の多くが「有用だった」「ある程度有用だった」と回答している。

● ボランティア活動の日数



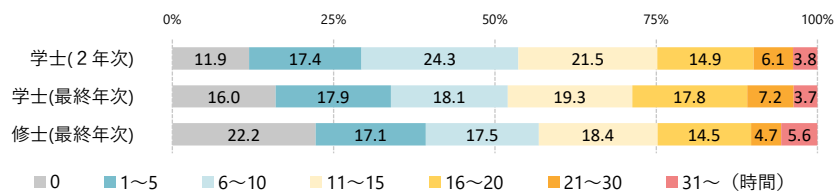
アルバイト／定職

● アルバイト／定職の有用性



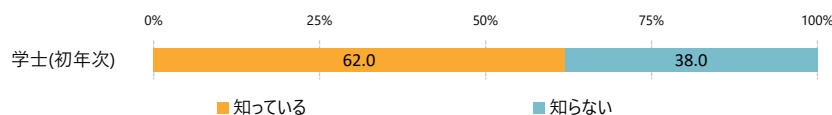
● どの学年においても90%を超える学生がアルバイトを経験しており、30%近くの学生が週16時間以上従事している。経験者の多くが「有用だった」「ある程度有用だった」と回答している。

● アルバイト／定職の時間（1週間平均）＊

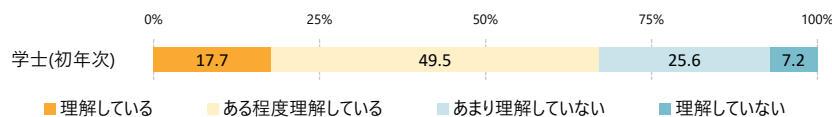


教育目標に関する理解

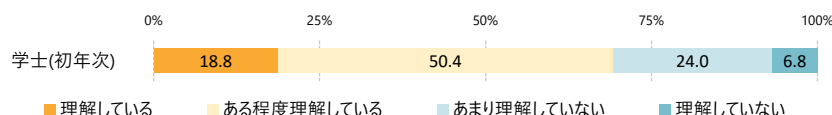
● 宮崎大学が育成する力を知っているか



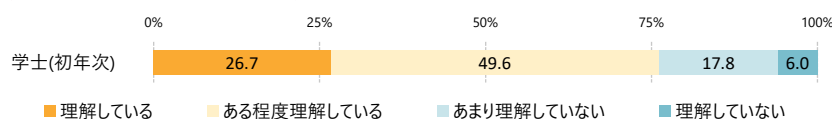
● 自分の学科・課程のディプロマ・ポリシーを理解しているか



● 自分の学科・課程のカリキュラム・ポリシーを理解しているか



● 自分の学科・課程のアドミッション・ポリシーを理解しているか



● 宮崎大学では、社会性、主体性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、教養と専門に関する知識・技能の育成に力を入れている。こうした教育目標に関する初年次生の認知度は62%と低い。

学科・課程レベルの3つのポリシーについて、「理解していない」「あまり理解していない」学生が30%程度存在している。学習目標の明確化は学習意欲を高め学習を継続する上で重要となる。

※ ディプロマ・ポリシー

= 卒業要件・学位授与の方針

カリキュラム・ポリシー

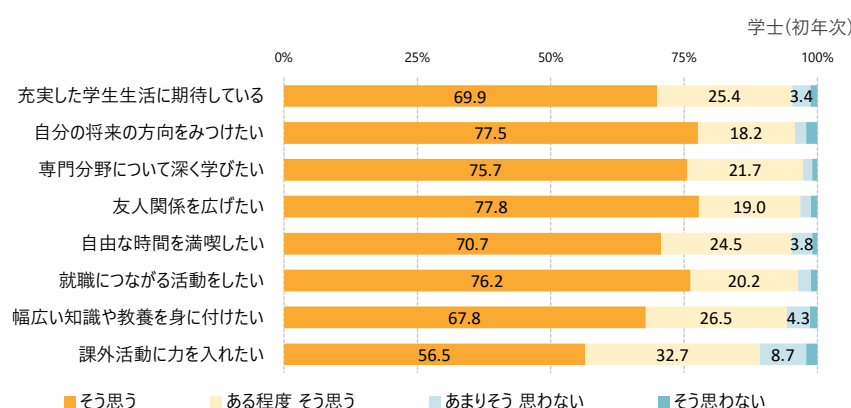
= 教育課程の編成・実施の方針

アドミッション・ポリシー

= 入学者受入・選抜の方針

入学時の希望

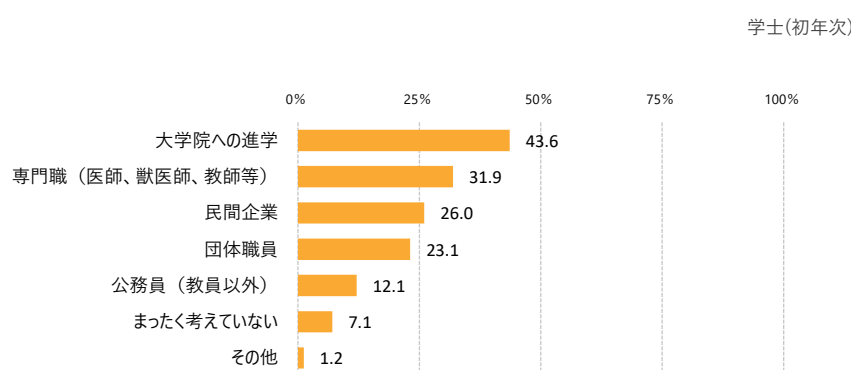
● 入学時の意欲



● 学習、進路、課外活動等に対する初年次学生の高い期待をうかがうことができる。

卒業後に希望する進路

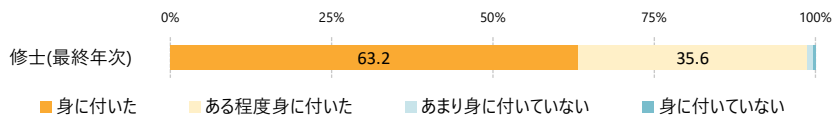
● 卒業後の進路の希望（複数回答）



● 入学時点で卒業後の進路を意識している学生が大多数を占める。

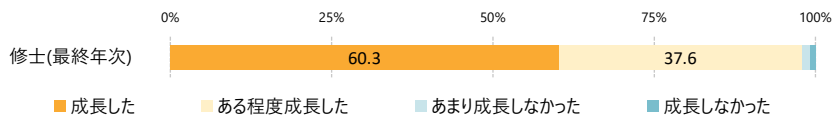
研究について

● 高度な専門知識を応用する能力が身についた



● 高度な専門知識を応用する能力は、98.8%が身に付いたと回答している。大学院での学びについての自由記述からは、充実した学びの様子が伺われる。

● 大学院在学中に成長したと感じるか



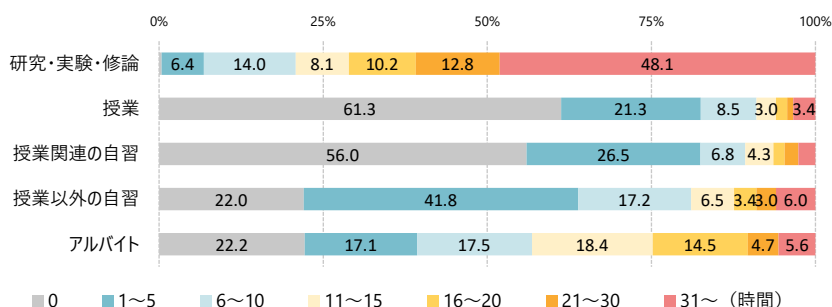
● 大学院での学びについて（自由記述）

知りたい分野についての専門性を深めることができた。課題発見や世の中のニーズの把握など、研究の難しさを実感しながらも、自分のやりたいことについて論文を作ることで、他では得られない達成感を得られた。（工学研究科）

社会に出てからの学び直しは容易ではなかったが、日常の業務で感じていた疑問や課題を、理論や先行研究の視点から捉え直し、深く考えることができたことは何にも代えがたい経験だった。（地域資源創成学研究科）

大学院生の生活時間

● 大学院生の生活時間（1週間平均）



● 修士課程では修士論文・研究と授業に関連しない自習の時間が長い点に特徴がある。

大学院生の生活 について ※参考資料

● 大学院生の生活費

出典：日本学生支援機構（JASSO）「令和4年度学生生活調査」

区分	収入（年間）			
	宮崎大学 大学院(n=11)		全国国立大平均	
	自宅	下宿・アパート	自宅	下宿・アパート
家庭から	315,000	676,900	498,600	1,033,400
奨学金	512,000	447,000	308,000	447,600
アルバイト	185,000	203,000	403,400	367,200
定職収入	60,000	107,800	231,700	161,900
計	1,072,000	1,434,700	1,441,700	2,010,100

区分	支出（年間）			
	宮崎大学 大学院(n=11)		全国国立大平均	
	自宅	下宿・アパート	自宅	下宿・アパート
修学費	20,000	16,300	43,500	35,700
課外活動費	17,500	13,500	10,500	14,500
通学費	130,000	55,800	110,400	25,300
食費	55,000	322,500	153,000	350,800
住居・光熱費	—	311,000	—	545,000
保健衛生費	40,000	30,400	45,600	51,900
娯楽・嗜好費	110,000	152,500	150,400	172,900
その他	70,000	159,300	167,600	178,600
計	442,500	1,061,300	681,000	1,374,700

注）授業料等の学校納付金を除く